

学術フォーラム

「伝統と正統性、その創造と統制・隠滅」

企画趣旨

今日の日本において伝統的なもの、正統性のあるものと考えられているもののなかには、実際には歴史の浅いものや、恣意的に創造されたもの、過去の姿から大きく変容しているものも少なくない。このフォーラムでは、近代・現代の日本において、主に日本文学・文化にかかわって伝統や正統性を創造・統制・隠滅する動きについて、前近代からの連続性を意識しながら、5人の報告者の報告内容（戦争と軍記・能楽史・政治思想・和歌と短歌・女子教育）をもとに考える。

プログラム

9:30 開会挨拶・趣旨説明

9:45 - 11:15 研究発表〈午前の部〉

秀吉の時代を語る言葉——中世軍記の裾野

鈴木 彰 (立教大学)

国民国家の「正統性」を表象する文化——近代能楽史から考える

徐 禎完 (韓国・翰林大学校)

渦巻の政治のなかの「道徳正当性」の論理とその変容

宋 碩源 (韓国・慶熙大学校)

11:15 - 12:30 昼休み

12:30 - 13:00 中間討論

13:00 - 14:00 研究発表〈午後の部〉

消費される「勅題」——〈詠む〉ことと〈使う〉ことの間で

松澤俊二 (桃山学院大学)

皇后にみる女子教育——漢学を手がかりとして

榊原千鶴 (名古屋大学)

14:15 - 16:15 全体討論 司会：徐 禎完・鈴木 彰

16:15 まとめ・閉会挨拶

【日時】 2020年2月26日(水) 9:30～16:30 (※ 9:15 受付開始)

【場所】 立教大学 池袋キャンパス 太刀川記念館 3階カンファレンス・ルーム

【主催】 翰林大学校日本学研究所
立教大学日本学研究所

【対象】 本学学生、教職員、校友、一般 (事前申し込み不要)

2017 韓国研究財団 人文韓国プラス (HK+) 人文基礎学問分野〈ポスト帝国の文化権力と東アジア〉関連事業

